

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-076329

(43)Date of publication of application : 14.03.2000

(51)Int.Cl.

G06F 17/60

(21)Application number : 10-248722

(71)Applicant : RECRUIT CO LTD

(22)Date of filing : 02.09.1998

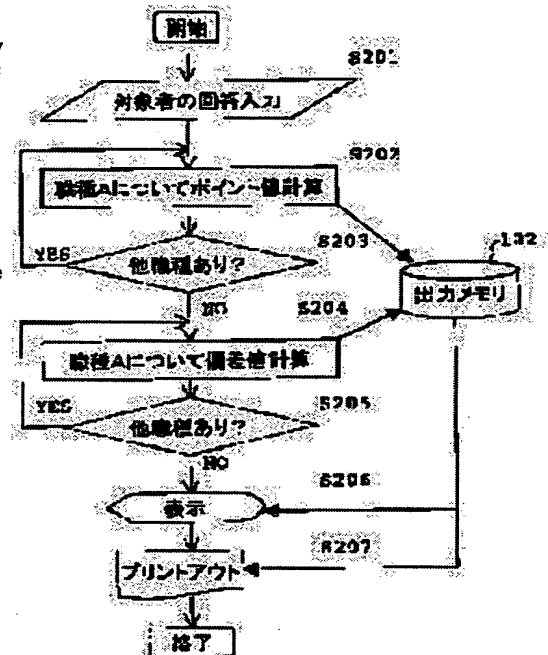
(72)Inventor : FURUNO YOICHI
MATSUMURA NAOKI

(54) METIER EVALUATING DEVICE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To permit accurate metier evaluation by adequately evaluating the adequacy of a person who actually works and then comparing and checking the evaluation with the evaluation result of an examinee.

SOLUTION: The processor of this device calculates raw scores of the examinee for every job description (S202) corresponding to point matrix data constituted by scoring the degrees of adaptation to the job descriptions to be evaluated for every evaluation question based on to answer information to an evaluation question group of population and answer information to an evaluation question group of groups engaged with a specific job description. Then the raw scores are contrasted with the average and standard deviation of points calculated according to the point matrix and the answer information to the evaluation question group of population to calculate deviation for every job description (S204). Then the degrees of adaptation of the examinee are displayed in the unit of the job description based on the deviation (S206, S207).



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 30.04.1999

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3143095

[Date of registration] 22.12.2000

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-76329

(P2000-76329A)

(43) 公開日 平成12年3月14日 (2000.3.14)

(51) Int.Cl.⁷

G 0 6 F 17/60

識別記号

F I

G 0 6 F 15/21

テーマコード (参考)

Z 5 B 0 4 9

審査請求 有 請求項の数15 O L (全 18 頁)

(21) 出願番号 特願平10-248722

(22) 出願日 平成10年9月2日 (1998.9.2)

(71) 出願人 000139012

株式会社リクルート

東京都中央区銀座8丁目4番17号

(72) 発明者 古野 庸一

東京都中央区銀座8-4-17 株式会社リ

クルート内

(72) 発明者 松村 直樹

東京都中央区銀座8-4-17 株式会社リ

クルート内

(74) 代理人 100079108

弁理士 稲葉 良幸 (外2名)

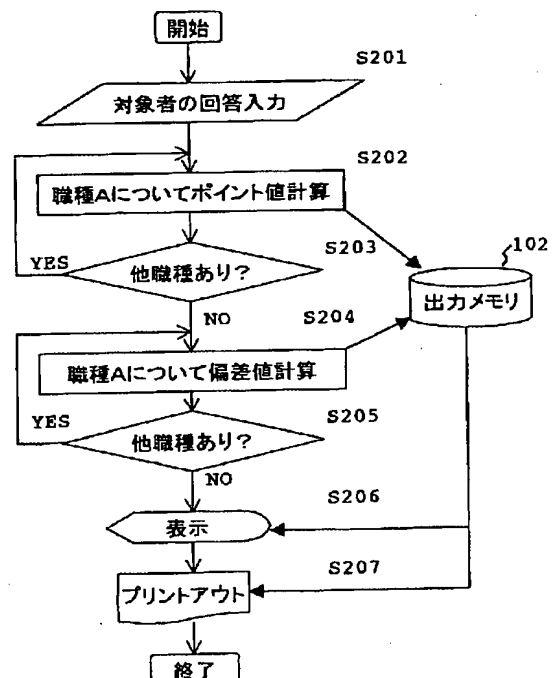
Fターム (参考) 5B049 AA02 BB21 EE02 EE03 EE31

(54) 【発明の名称】 適職評価装置

(57) 【要約】

【課題】 的確な適職評価を可能にする適職評価装置の提供。

【解決手段】 処理装置(1)は、母集団の評価質問群に対する回答情報と所定の職種に従事する集団の評価質問群に対する回答情報とに基づき評価対象となる職種への適合の程度を評価質問ごとに点数化して構成されるポイントマトリクスデータに対応させて、当該被験者の素点を職種ごとに計算する (S202)。次いで、ポイントマトリクスデータと母集団の評価質問群に対する回答情報とに基づいて計算される点数の平均および標準偏差に素点を対比させて偏差値を職種ごとに計算する (S204)。そして、偏差値の多少に応じて職種単位で当該被験者の適合の度合いを表示する (S206, S207)。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 被験者の評価質問群に対する回答情報に基づいて被験者に適合する職種を評価する適職評価装置であって、

母集団の前記評価質問群に対する回答情報と所定の職種に従事する集団の前記評価質問群に対する回答情報とに基づき評価対象となる職種への適合の程度が高いと判定された集団について、それらの回答内容を評価質問ごとに点数化して構成されたポイントマトリクスデータを職種単位に格納する第1のデータベースと、前記ポイントマトリクスデータと前記母集団の評価質問群に対する回答情報とに基づいて計算される前記点数の平均および標準偏差を職種単位に格納する第2のデータベースと、

被験者に適合する職種を評価する際に、前記第1のデータベースに格納されたポイントマトリクスデータに対応させて当該被験者の素点を職種ごとに計算し、前記第2のデータベースに格納された平均および標準偏差に基づき前記素点の偏差値を職種ごとに計算し、当該偏差値の多少に応じて職種単位で当該被験者の適合の度合いを評価可能に構成されている処理装置と、を備えたことを特徴とする適職評価装置。

【請求項2】 前記処理装置は、ある職種における前記ポイントマトリクスデータの生成時に、評価質問のうち当該職種に対する適合度を評価可能に設定された質問群についての回答内容を参照して当該回答内容が肯定的である集団を当該職種に適合した集団であるとして抽出可能に構成されている請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項3】 前記処理装置は、ある職種における前記ポイントマトリクスデータの生成時に、評価質問各々に対し複数設定されている選択肢ごとに、当該職種に従事する集団および母集団の回答率をそれぞれ集計し、当該職種に従事する集団の回答率と母集団の回答率との差分を計算し、当該回答率の差分に応じた点数を付すことにより、前記評価質問を構成する各選択肢のそれぞれについて点数を対応させたマトリクスデータを職種単位に生成して前記第1のデータベースに格納する請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項4】 前記処理装置は、前記ポイントマトリクスデータ生成時に、統計的に算出して設定した範囲区分に前記回答率の値を対応させて点数化する請求項2に記載の適職評価装置。

【請求項5】 前記処理装置は、ある職種における前記平均および標準偏差の計算時に、母集団の構成員に単位に、各評価質問についての選択肢への回答情報を前記ポイントマトリクスデータに照合して点数を付し、総ての評価質問に対して付された点数を合計し、構成員ごとの合計点数の分布に基づいて平均および標準偏差を計算する請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項6】 前記処理装置は、被験者に適合する職種

を評価する際に、職種単位で前記ポイントマトリクスデータを参照し、評価質問各々に対しどの選択肢が回答されているかに応じて点数を付し、総ての評価質問に対して付された点数を合計して前記素点を計算する請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項7】 前記処理装置は、被験者に適合する職種を評価する際に、前記素点と母集団の平均点との差分の前記標準偏差に対する割合に応じて前記偏差値を計算する請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項8】 前記処理装置は、被験者に適合する職種を評価する際に、計算した前記偏差値の最も高いものを当該被験者に適合する職種として評価可能に構成されている請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項9】 前記評価質問群は、予め特定の評価指標に対応づけられており、前記処理装置は、被験者に適合する職種を評価する際に、当該被験者による回答情報と前記評価指標とを対応づけて属性分析可能に構成されている請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項10】 前記処理装置は、前記評価質問に関する情報を格納する第3のデータベースをさらに備え、被験者に適合する職種を評価する際に、前記第3のデータベースに格納された評価質問に関する情報を被験者に参照可能に提示可能に構成されている請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項11】 前記処理装置は、職種に関する説明情報を格納する第4のデータベースをさらに備え、被験者に適合する職種を評価する際に、被験者に適合すると特定された職種に対応する説明情報を前記第4のデータベースから読み取って当該被験者に参照可能に提示する請求項9に記載の適職評価装置。

【請求項12】 前記処理装置は、回線を介して端末装置と接続可能に構成され、前記端末装置から職種評価が要求された場合に、当該端末装置から入力された回答情報に基づいて当該端末装置を操作する被験者に適合する職種を評価可能に構成されている請求項1乃至請求項11のいずれか一項に記載の適職評価装置。

【請求項13】 被験者の評価質問群に対する回答情報に基づいて被験者に適合する職種を評価する適職評価方法であって、予め任意の職種に従事する者を母集団として設定し、当該母集団に対して課せられた評価質問のうち当該職種に対する適合度を評価可能に設定された質問群についての回答内容を参照して当該回答内容が肯定的である集団を当該職種に適合した集団であるとして抽出し、各職種に適合している集団全体と個々の職種に適合している集団との比較において当該職種に適合している集団の有する特徴的な傾向を数値化し、被験者に適合する職種を評価する際に、当該被験者の前記評価質問群に対する回答情報が有する傾向を数値化し、各職種に適合している集団の有する傾向を示す数値

3

と各々比較して、被験者の各職種に対する適合度を評価することを特徴とする適職評価方法。

【請求項14】 被験者の評価質問群に対する回答情報に基づいて被験者に適合する職種を評価する適職評価方法であって、

母集団の前記評価質問群に対する回答情報と所定の職種に従事する集団の前記評価質問群に対する回答情報とに基づき、評価対象となる職種への適合の程度が高いと判定された集団について、それらの回答内容を評価質問ごとに点数化して構成されたポイントマトリクスデータを職種単位に格納するステップと、

前記ポイントマトリクスデータと前記母集団の評価質問群に対する回答情報とに基づいて計算される前記点数の平均および標準偏差を職種単位に格納するステップと、被験者に適合する職種を評価する際に、前記第1のデータベースに格納されたポイントマトリクスデータに対応させて当該被験者の素点を職種ごとに計算するステップと、

前記第2のデータベースに格納された平均および標準偏差に基づき前記素点の偏差値を職種ごとに計算するステップと、

当該偏差値の多少に応じて職種単位で当該被験者の適合の度合いを評価するステップと、を備えたことを特徴とする適職評価方法。

【請求項15】 請求項13または請求項14に記載の適職評価方法をコンピュータに実行させるためのプログラムが格納された機械読み取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、コンピュータを用いた適職評価装置に係わる。特に、本発明は実際に就職している者が就業している職種について評価したデータを利用することにより、的確な適職評価を可能とした適職評価技術の改良に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、適職評価アンケートという形で用意された複数の質問に被験者が回答し、その回答に基づいて被験者に対する適職を検討するというサービスが存在していた。この適職評価アンケートは、サービス提供者により作成されるものであって、職種ごとに性格の適性を割り出して被験者の適職を行動様式や性格上から照合するというものであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来の適職評価方法では、一般論から適職を特定するに過ぎず、人生の重要な選択の一つである職業選択の材料としては信頼性の少ないものであった。つまり従来の適職評価方法は、現実には各々の職種に就業している者がその職種をどのように評価し遣り甲斐を感じているかについてのフィードバックに基づく評価ではなかった。

4

【0004】例えば適職評価アンケートに設けられていた質問の多くは相互に脈絡が無く、このような質問に対する回答から読み取れる事項は、単に被験者の性格が開放的か否か、明るいか否かなどでしかなかった。この評価結果を各職種に対する一般的イメージに照合して職種を判定していたので、現実にはその職種に要求される適性に被験者の特性が合致していないことがあった。特に近年では新規な職業が次々出現し、コンピュータ化の促進により特定の職種に対する適性が日々変遷を遂げているため、一般論的に評価していたのでは、実体に向け離れた適職評価になってしまうおそれがあった。

【0005】一方で、現実には就業している者に適職評価を実施し被験者の回答結果との対応付けを試みたとしても、サンプルとなる集団の中にはその職種が肌に合わず現実には遣り甲斐を持って仕事をしていない者も多く含まれるため、正しい評価が行えない。

【0006】上記問題に鑑み、本願発明者は、現実には就業している者の適性を正當に評価した上で、被験者の評価結果と比較検討することにより、的確な適職評価を行うという技術的思想に想到した。

【0007】

【課題を解決するための手段】すなわち、本願発明の第1の課題は、現実には就業している母集団の適性を点数化し被験者の適性と比較することにより、的確な適職評価を行う適職評価装置を提供することである。

【0008】本願発明の第2の課題は、現実には就業している母集団の適性を点数化し被験者の適性と比較することにより、的確な適職評価を行う適職評価方法を提供することである。

【0009】上記第1の課題を解決する適職評価装置

は、被験者の評価質問群に対する回答情報に基づいて被験者に適合する職種を評価する適職評価装置であって、

1) 母集団の前記評価質問群に対する回答情報と所定の職種に従事する集団の前記評価質問群に対する回答情報とに基づき、評価対象となる職種への適合の程度が高いと判定された集団について、それらの回答内容を評価質問ごとに点数化して構成されたポイントマトリクスデータを職種単位に格納する第1のデータベース、

2) ポイントマトリクスデータと母集団の評価質問群に対する回答情報とに基づいて計算される点数の平均および標準偏差を職種単位に格納する第2のデータベース、および

3) 被験者に適合する職種を評価する際に、第1のデータベースに格納されたポイントマトリクスデータに対応させて当該被験者の素点を職種ごとに計算し、第2のデータベースに格納された平均および標準偏差に基づき素点の偏差値を職種ごとに計算し、当該偏差値の多少に応じて職種単位で当該被験者の適合の度合いを評価可能に構成されている処理装置、を備える。

【0010】ここで「母集団」とは予め職種の異同を問

わずサンプリングされた、現実にある職種に就業している者の集団をいう。母集団としては国民の平均像を反映できるサンプル（構成員）で構成されていれば十分であり、広範な職種の従事者を含んでいることが好ましい。サンプルの職種に偏りがある場合には、国民全体の構成と符合するように選択されたものであることが好ましい。また自分が就業している職種に遣り甲斐を感じていると認められる者からなる母集団であってもよい。「評価質問群」とは、被験者の性格や行動様式、思考様式を多面的に表すことの可能な、適合の度合いを段階的に示す選択肢で構成された質問の束をいう。「処理装置」は、汎用のコンピュータ装置であって、スタンドアロンの構成である他、LANやWANのサーバとして提供されていてもよい。職種と回答情報との対比は、職種コードに性別、職業名を対応づけた職種ファイル、評価質問の位置情報と質問番号とを対応づけた質問ファイルなどを間接的に参照してされるものであってもよい。平均と標準偏差が別個に格納されていてもよい。

【0011】ここで上記処理装置は、ある職種における前記ポイントマトリクスデータの生成時に、評価質問のうち当該職種に対する適合度を評価可能に設定された質問群についての回答内容を参照して当該回答内容が肯定的である集団を当該職種に適合した集団であるとして抽出可能に構成されている。この装置によれば、遣り甲斐を持って就業しているサンプルのみを基礎データとして利用できる、その職業の現状に適合している者との比較において適職であるか否かを定めることができるようになる。「職種に対する適合度を評価可能に設定された質問群」とは、例えば直接現在の仕事に対して遣り甲斐を持っているか否かを問う質問で構成する他、被験者の意識を問う間接的質問で構成されていてもよい。

【0012】例えば、上記処理装置は、ある職種におけるポイントマトリクスデータの生成時に、評価質問各々に対し複数設定されている選択肢ごとに、当該職種に従事する集団および母集団の回答率をそれぞれ集計し、当該職種に従事する集団の回答率と母集団の回答率との差分を計算し、当該回答率の差分に応じた点数を付すことにより、評価質問を構成する各選択肢のそれぞれについて点数を対応させたマトリクスデータを職種単位に生成して第1のデータベースに格納する。

【0013】例えば上記処理装置は、ポイントマトリクスデータ生成時に、統計的に算出して設定した範囲区分に回答率の値を対応させて点数化する。具体的には、統計的に回答率のバランスを考慮して範囲区分を決める。例えば、選択肢が3個であり、分布全体の上位5%に入るものを+1点に設定するなら、上位5%となる回答率を範囲区分の境界とする。分布下位についての範囲区分についても同様である。上位5%および下位5%の回答率がそれぞれ+16%、-16%であったなら、回答率+16%以上が+1点、±16%の範囲内が点数0、-

16%以下が-1点というように範囲分けする。どの程度の分布割合に点数の境界を定めるかは、プログラム設計者が任意に行えばよい。

【0014】例えば上記処理装置は、ある職種における平均および標準偏差の計算時に、母集団の構成員に単位に、各評価質問についての選択肢への回答情報をポイントマトリクスデータに照合して点数を付し、総ての評価質問に対して付された点数を合計し、構成員ごとの合計点数の分布に基づいて平均および標準偏差を計算する。

【0015】例えば上記処理装置は、被験者に適合する職種を評価する際に、職種単位でポイントマトリクスデータを参照し、評価質問各々に対しどの選択肢が回答されているかに応じて点数を付し、総ての評価質問に対して付された点数を合計して素点を計算する。

【0016】例えば上記処理装置は、被験者に適合する職種を評価する際に、素点と母集団の平均点との差分の標準偏差に対する割合に応じて偏差値を計算する。具体的には、点数の分布に応じて適当な計算ロジックを計算する。例えば分布が正規分布に近いなら、

20
$$\left((\text{被験者の素点} - \text{母集団平均点}) \times 10 / \text{標準偏差} \right) + 50$$

などの偏差値算出方法にしたがって計算する。分布に偏りがある場合には、例えば点数分布上で被験者の偏差（全体における分布上の割合）を算出し、正規分布でその偏差における値が偏差値幾らであるかを参照して、その被験者の偏差値とする方法が考えられる。

【0017】例えば上記処理装置は、被験者に適合する職種を評価する際に、計算した偏差値の最も高いものを当該被験者に適合する職種として評価可能に構成されている。また、適職の適合度を明らかにするために、偏差値に対応させて適職を列挙して印刷または画面表示させてもよい。

【0018】例えば上記評価質問群は、予め特定の評価指標に対応づけられており、上記処理装置は、被験者に適合する職種を評価する際に、当該被験者による回答情報と評価指標とを対応づけて属性分析可能に構成されている。「評価指標」とは、例えば「意思決定のスタイル」「依存度傾向の度合い」「不確かさに対する寛容性」「複雑さに対する嗜好度」「キャリアに対する志向」「ライフスタイル」などを評価可能なパラメータ群をいう。

【0019】例えば上記処理装置は、評価質問に関する情報を格納する第3のデータベースをさらに備える。そして被験者に適合する職種を評価する際に、前記第3のデータベースに格納された評価質問に関する情報を被験者に参照可能に提示可能に構成されている。「参照可能に提示」とは、評価結果をプリントアウトしたり画面表示したりする出力形態をいう。

【0020】例えば上記処理装置は、職種に関する情報を格納する第4のデータベースをさらに備える。そして

被験者に適合する職種を評価する際に、被験者に適合すると特定された職種に対応する情報を前記第4のデータベースから読み取って当該被験者に参照可能に提示する。ここで「職種に関する情報」とは、当該職種の適性や発展性その他、被験者に有用な情報をメッセージや画像情報としてまとめたものをいう。「参照可能に表示」の意味は、前述した通りである。

【0021】さらに本発明において、上記処理装置は、回線を介して端末装置と接続可能に構成されていてもよい。そして端末装置から職種評価が要求された場合に、当該端末装置から入力された回答情報に基づいて当該端末装置を操作する被験者に適合する職種を評価可能に構成されている。ここで「回線」は、加入者回線、専用回線等のWANをいう。「参照可能に提示」とは、当該サーバまたはプロバイダのサーバ上の格納領域に端末装置からブラウザソフトで閲覧されるハイパーテキスト形式のファイルを生成して転送し格納することを含む。

【0022】上記第2の課題を解決する適職評価方法は、被験者の評価質問群に対する回答情報に基づいて被験者に適合する職種を評価する適職評価方法である。まず予め任意の職種に従事する者を母集団として設定し、当該母集団に対して課せられた評価質問のうち当該職種に対する適合度を評価可能に設定された質問群についての回答内容を参照して当該回答内容が肯定的である集団を当該職種に適合した集団であるとして抽出し、各職種に適合している集団全体と個々の職種に適合している集団との比較において当該職種に適合している集団の有する特徴的な傾向を数値化する。そして、被験者に適合する職種を評価する際に、当該被験者の前記評価質問群に対する回答情報が有する傾向を数値化し、各職種に適合している集団の有する傾向を示す数値と各々比較して、被験者の各職種に対する適合度を評価する。

【0023】本発明は、被験者の評価質問群に対する回答情報に基づいて被験者に適合する職種を評価する適職評価方法であって、

- 1) 母集団の前記評価質問群に対する回答情報と所定の職種に従事する集団の前記評価質問群に対する回答情報とに基づき、評価対象となる職種への適合の程度が高いと判定された集団について、それらの回答内容を評価質問ごとに点数化して構成されたポイントマトリクスデータを職種単位に格納するステップ、
- 2) ポイントマトリクスデータと母集団の評価質問群に対する回答情報とに基づいて計算される点数の平均および標準偏差を職種単位に格納するステップ、
- 3) 被験者に適合する職種を評価する際に、第1のデータベースに格納されたポイントマトリクスデータに対応させて当該被験者の素点を職種ごとに計算するステップ、
- 4) 第2のデータベースに格納された平均及び標準偏差に基づき素点の偏差値を職種ごとに計算するステップ、および

5) 当該偏差値の多少に応じて職種単位で当該被験者の適合の度合いを評価するステップを備える。

【0024】本発明は、上記適職評価方法をコンピュータに実行させるためのプログラムが格納された機械読み取り可能な記録媒体である。

【0025】なお、記録媒体とは、何等かの物理的手段により情報（主にデジタルデータ、プログラム）が記録されているものであって、コンピュータ、専用プロセッサ等の処理装置に所定の機能を行わせることができるものである。要するに、何等かの手段でもってコンピュータにプログラムをダウンロードし、所定の機能を実行させるものであればよい。例えば、フレキシブルディスク、固定ディスク、磁気テープ、光磁気ディスク、CD、CD-ROM、CD-R、DVD-RAM、DVD-ROM、DVD-R、PD、MD、DCC、ROMカートリッジ、バッテリーバックアップ付きのRAMメモ리카ートリッジ、フラッシュメモ리카ートリッジ、不揮発性RAMカートリッジ等を含む。有線または無線の通信回線（公衆回線、データ専用線、衛星回線等）を介してホストコンピュータからデータの転送を受ける場合を含むものとする。いわゆるインターネットもここにいう記録媒体に含まれるものである。

【0026】

【発明の実施の形態】次に、本発明の好適な実施の形態を、図面を参照しながら説明する。

実施形態1

（構成）本発明の実施形態1は、スタンドアロン形態の適職評価装置に関する。本実施形態1の適職評価装置は、図1に示すように、処理装置1、ポイントマトリクスデータベース2、平均・標準偏差データベース3、読取装置4、入力装置5、表示装置6およびプリンタ7を備えている。

【0027】処理装置1は、汎用のコンピュータ装置としての構成を備えている。具体的には、処理装置1は、固定ディスク100、CPU101、RAM102、ROM103、インターフェース回路104、105、106、ビデオ表示回路（VDP）107およびCD-ROMドライブ装置108を備えている。

【0028】CPU101は、CD-ROM等の記録媒体から図示しない固定ディスクに転送されたプログラムをRAM102に転送した後実行することにより、当該処理装置を本発明の適職評価装置として機能させることが可能に構成されている。例えば当該処理装置がオペレーティングシステム（OS）上で動作する場合には、CPU101は最初にROM103のIPLを実行してOS用プログラムをRAM102に転送し、当該OSにしたがって動作するようになっている。そしてユーザが入力装置5を操作することにより適職評価プログラムの実行が支持されると、CPU101は、対応する適職評価プログラムを固定ディスクからRAM102に転送し実

行可能に構成されている。当該適職評価プログラムは、外部記録媒体であるFD、CD-ROMまたはDVDなどにより供給される。そしてCPU101が当該記録媒体に格納されている導入プログラム（インストーラ）を実行することにより、適職評価プログラムが固定ディスク内に実行可能に転送されるようになっている。この適職評価プログラムは、実行ファイルの形式であってもよいが、汎用のデータベースアプリケーションにおいて実行されるマクロプログラムの形式を採用していてもよい。マクロプログラムの形式で提供される場合には、対応するデータベースアプリケーションが実行された後、マクロプログラムが実行されるように構成される。

【0029】RAM102は、上記のようにアプリケーションプログラムやOSの格納領域およびCPU101の動作領域となる他、適職評価プログラムにおける出力データを格納するようになっている。ROM103はIPLが格納されている。インターフェース回路104は読取装置4からのデータを入力し、インターフェース回路105は入力装置5からの操作データを入力し、インターフェース回路106はプリンタ7にプリントデータを出力するようになっている。ビデオ表示回路107は、CPU101から転送された文字データや画像データに対応して表示装置6に表示可能な形式の映像信号を出力可能になっている。CD-ROMドライブ装置108は、CPU101の制御に対応して装着されたCD-ROMなどからデータをRAM102または固定ディスク100に転送可能になっている。

【0030】固定ディスク100には、ポイントマトリクスデータベース2、平均・標準偏差データベース3、質問データベース8および説明データベース9などが、適職評価プログラムとともに格納されている。

【0031】ポイントマトリクスデータベース2は、後述する手順で計算されるポイントマトリクスデータを職種単位に格納可能になっている。ポイントマトリクスデータは職種コードにより参照されるようになっている。平均・標準偏差データベース3は、後述する手順で計算される母集団についての点数の平均値および標準偏差を職種単位に格納可能になっている。なお、これらポイントマトリクスデータや平均・標準偏差は、当該処理装置1で生成されて固定ディスク100に格納される他、予め製造業者において作成されてデータベースとして供給されるものであってもよい。すなわち予め定められたデータベースとしてCD-ROM等から読み取られ固定ディスク100に転送されるように構成してもよい。

【0032】質問データベース8は、適職評価のための評価質問情報が格納されている。説明データベース9は職種に対応づけてその職種の内容や適性に関するコメントが格納されている。

【0033】読取装置4は、当該処理装置1でポイントマトリクスデータや平均・標準偏差を計算する場合に必

要とされるもので、母集団から集められた評価質問回答シートを読み取ってCPU101から参照可能に入力するものである。当該装置は、回答シートから回答情報を読み取る場合に必要とされ、本発明の処理に必須の構成要素ではない。ただし被験者に回答シートで適職評価質問に答えさせる場合には、この読取装置4は必要である。入力装置5は、マウスやキーボード等、被験者の操作に対応した操作データを入力可能なものである。表示装置6は、汎用のCRTや液晶パネルなどの表示手段である。プリンタ7は、プリントデータに対応して印字可能な汎用の印刷装置である。

【0034】（データベース作成処理）次に、本発明のデータベースの作成手順を、図2のフローチャートに基づいて説明する。この処理に先立ち、母集団を設定して母集団の構成員に適職を評価するための評価質問回答シートに回答させておく必要がある。母集団は、平均的な国民の職業バランスに近似したサンプル（構成員）で構成され、適職として評価させたい総ての職種を含んでいることが好ましい。評価質問は、適職評価時に使用する質問と同じ必要はなく、職種ごとの適性を際立たせることができるように多様な質問項目から構成されていることが好ましい。

【0035】例えば母集団の構成員の属性を正確に判定するために、性別、学歴、年齢、職種などを細かく質問する属性質問群、職種に対する遣り甲斐を評価する適性質問群、構成員の性格、行動様式、思考様式、意欲などを例えば3段階で評価する活動・意欲評価質問群などにより構成される。特に従事している職種に対する遣り甲斐を判定可能な適性質問群を設けておくことは重要である。適性質問群とは、職種に対する適合度を評価可能に設定された質問群であり、例えば直接現在の仕事に対して遣り甲斐を持っているか否かを問う質問で構成する他、「現在の仕事で自分の能力が発揮できているか」「仕事に喜びを感じることもあるか」「職場で仕事することが楽しいか」「職場の人から刺激を受けているか」「自分のやりたいことが職場で発揮できるか」「会社の商品やサービスが外部から高く評価されているか」などの間接的質問で構成されていてもよい。

【0036】構成員によって回答された回答シートは、読取装置4から読み取って構成員単位で、評価質問ごとに選ばれた選択肢が記録され固定ディスクにデータベース化されて格納される。なお、別の装置で回答シートを読み取ってデータ化しておき、本適職評価装置でそのデータを用いるように構成してもよい。また、これら評価質問は例えば処理装置1を操作することにより個々に入力可能に構成してもよい。ただし同時に多数の母集団データを取得するために、各職種から抽出した従業員に回答を依頼して集計できる回答シートによる入力が便宜である。

【0037】ポイント値計算（S10）：さてCPU

11

101は、母集団データから属性質問群に対応した回答情報によって職種単位にデータを抽出する。そして抽出された集団についてさらに適性質問群に基づく評価を行い、当該職種に適性があると思われる集団を絞り込む

(S101)。例えば適性質問の各項目について「やりたい」「やってもいい」「やりたくない」という選択肢が与えられている場合、「やりたい」「やってもいい」「やりたくない」の順で当該項目に対応する職種に適性があると判定される。「やりたくない」にマークした構成員は、この職種に就業してはいるが遣り甲斐を感じていないと判定されるので、この構成員を絞り込むべき集団から除外する。構成員の回答には誤解もあるため、一つの職種について複数の項目を割り当てて、複数の回答に基づいて適性を判定するように構成することが好ましい。以上の処理により職種ごとに遣り甲斐を日々感じておりその職種に適性があると考えられる集団のみが抽出される。この各職種について適職に就業していると判定できる集団を「適性集団」と称する。ただし以下の処理で、適性母集団の代わりに国民の職種バランスに符合した元の母集団そのものを用いても無論良い。

【0038】適性集団を抽出したら、次いで表1に示すように、評価質問ごとに、当該適性集団の回答率(A)を集計する(S102)。例えば選択肢が「好き」「嫌い」「どちらでも無い」の三種類である場合、適性集団中、質問Q1について6割の構成員が「好き」にマークしていたら回答率は60%となる。

【0039】

【表1】

質問 No	職務A満足者の回答率		
	好き	嫌い	どちらでも無い
Q1	60%	20%	20%
Q2	20%	60%	20%
Q3	10%	30%	60%
Q4	35	50%	15%
Q5	80%	5%	15%
⋮	⋮	⋮	⋮
Q200	70%	10%	20%

【0040】次に、職種による絞り込みをしない母集団全体について、上記と同様に回答情報に基づいて適職に就業しているサンプル(構成員)を抽出する(S103)。この抽出により一般世間の者のうち当該適性が比較的であると思われる母集団N人(Nは母集団総数M以下の自然数)が抽出される。そしてこの母集団についても上記と同様の手順で表2に示すように回答率(B)を集計する(S104)。ただしS103による処理をしない元の母集団の回答率を集計してもよい。

【0041】

【表2】

12

質問 No	母集団の回答率		
	好き	嫌い	どちらでも無い
Q1	40%	30%	30%
Q2	50%	45%	5%
Q3	30%	45%	25%
Q4	25%	25%	50%
Q5	45%	45%	10%
⋮	⋮	⋮	⋮
Q200	35%	50%	15%

【0042】次いで、職種Aに就業する適性集団の回答率(A)と母集団の回答率(B)との差分を、各評価質問を構成する選択肢ごとに計算し、表3に示すようなテーブルを職種ごとに作成する(S105)。

【0043】

【表3】

質問 No	回答率の差(職種A-母集団)		
	好き	嫌い	どちらでも無い
Q1	20%	-10%	-10%
Q2	-30%	15%	15%
Q3	-20%	-15%	35%
Q4	10%	25%	-35%
Q5	35%	-40%	5%
⋮	⋮	⋮	⋮
Q200	35%	-40%	5%

【0044】この処理により、職種Aを適職とする者が特に顕著に有すべき傾向がはっきりする。すなわち回答率の差分が大きくプラスになっていれば、その選択肢を強く選ぶ傾向があり、逆に差分が大きくマイナスになっていれば、その選択肢を選ばない傾向があり、ゼロの近辺であれば職種Aの就業者にも非就業者にも差のない特異性の無い選択肢であることになる。したがって大きくプラスになる傾向と大きくマイナスになる傾向を、この職種Aを特徴づける傾向として点数化できれば、価値ある適職判定データが得られることになる。

【0045】そこでCPU101は、上記回答率の差分の大きさと符号に応じてポイント数を計算する(S106)。この結果がポイントマトリクスデータとなる。例えば点数の分布において、点数分けをしたい集団の偏差(例えば上位5%下位5%)を定め、その偏差に相当する回答率を求める。表3の回答率差分テーブルに基づけば、分布上位5%を+1点とする場合に回答率が+16%以上となり、下位5%を-1点とする場合に回答率が-16%以下となる。その間の範囲は0点となる。これにより、表4に示すような職種Aに関するポイントマトリクスデータが得られる。算出されたポイントマトリクスデータは職種に対応させてポイントマトリクスデータベース2に格納される。これらの処理(S101~S106)を職種がある限り行う(S107;YES)。

【0046】

【表4】

13

質問 No	ポイントマトリクスデータ		
	好き	嫌い	どちらでも無い
Q1	1	0	0
Q2	-1	0	0
Q3	-1	0	1
Q4	0	1	-1
Q5	1	-1	0
⋮	⋮	⋮	⋮
Q200	1	-1	0

【0047】母集団に対するポイント処理（S11）：
ポイントマトリクスデータが生成されたら、当該デー

*タを参照してS103で抽出された母集団について構成員ごとに点数付けを行う（S111）。すなわち各構成員が選択した選択肢に対応させてポイントマトリクスデータで定義される点数を付する。この点数付けは、母集団についての点数の平均と標準偏差の統計をとる前段階の処理である。点数付けを行えば、例えば表5に示するようなポイントテーブルが職種ごとに得られる。「サンプル」は母集団の構成員を示す。

【0048】

【表5】

質問 No	職種A：母集団ポイント値							
	サンプル1	サンプル2	サンプル3	...	サンプルN			
Q1	好き	1	嫌い	0	...	好き	1	
Q2	好き	-1	好き	-1	...	好き	0	
Q3	どちら	1	好き	-1	...	好き	-1	
Q4	嫌い	1	どちら	-1	...	好き	0	
Q5	嫌い	-1	好き	1	...	好き	1	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	
Q200	どちら	0	嫌い	-1	...	嫌い	-1	
合計	-	1.5	-	1.0	-	-5	-	4

【0049】上記点数付け処理をサンプルとなる母集団の構成員が存在する限り行う（S112；YES）。一つの職種について総ての構成員について点数付け処理が終了したら（S112；NO）、他の職種のポイントマトリクスデータを使用して同様の点数付け処理（S111、S112）を継続する（S113；YES）。総ての職種について点数付け処理が終了し職種ごとのポイントテーブルが生成できたら（S113；NO）、平均・標準偏差算出処理（S12）に移行する。

【0050】平均・標準偏差算出処理（S12）：次いでCPU101は、各ポイントテーブルについての点数を抽出して合計し、それらの平均点を計算し、それらの分布に基づいて標準偏差を計算する（S121）。すなわち一般的にその職種に適性があると思われる者の傾向を点数化するのである。標準偏差の計算は通常用いられる数式に基づく。この平均・標準偏差のテーブルは、例えば表6のように職種に対応づけて計算される。

【0051】

【表6】

質問 No	全職種のポイントの	
	平均	標準偏差
職種A	1.5	5
職種B	2.3	6
職種C	3.0	4
⋮	⋮	⋮
職種M	1.9	3

【0052】この平均・標準偏差の算出を未計算の職種についてのポイントテーブルがある限り（S122；YES）続け、総ての職種について平均・標準偏差の計算が終了したら（S122；NO）、計算された平均・標準偏差のテーブルを平均・標準偏差データベース3に格納して、CPU101は前処理を終了する。

【0053】（適職評価処理）上記のようにして計算されたポイントマトリクスデータと平均・標準偏差テーブル

は、固定ディスクに格納されているものとする。なお、当該適職評価処理では被験者がスタンドアロンのコンピュータで適職評価プログラムを実行して実施するものとして構成したが、回答シートに被験者が回答し回答シートを読み取装置4で読み取って実行するように構成してもよい。ユーザは処理装置1において入力装置5から適職評価プログラムの実行を指示する。CPU101は固定ディスク100から対応する適職評価プログラムをRAM102に転送し実行する。

【0054】被験者の回答処理（S201）：適職評価プログラムを実行することにより、図4～図11に示するような画面が表示装置6に順次表示される。まず図4に示するようなメニュー画面が表示される。ユーザは入力装置5を使用して「START」アイコンを選択する。次いでCPU101は質問データベース8を参照し、適職評価用の質問入力画面を表示する。

【0055】ユーザはまず図5に示するような適性質問群について「やりたい」「やってもよい」「やりたくない」のいずれかのアイコンを選択する。次の画面に移行するためには「NEXT」のアイコンを選択する。

【0056】次いで図6の注意書き画面に続き図7に示するような活動評価質問群が表示される。ユーザがこの質問群の総てに回答し次画面を選択すると、図8に示するような注意書きに続き図9に示するような意欲評価質問群が表示される。ユーザがこの質問群に対してもアイコンのいずれかを選択して回答する。

【0057】ポイント値計算処理：ユーザが総ての質問群に回答して次画面を選択すると、CPU101は被験者の回答情報に基づいて内部処理を実行する。まずCPU101は一の職種について当該職種に対応するポイントマトリクスデータを使用してポイント値の計算を行う（S202）。すなわちCPU101は各質問について選択されている選択肢と当該職種について前述の処理

で作成されているポイントマトリクスデータを次々参照し、例えば表7に示すようにポイントテーブルを各々作成していく(S202)。

【0058】

【表7】

質問No	職種A:被験者のポイント値	
	回答内容	ポイント
Q1	好き	1
Q2	嫌い	-1
Q3	どちらでも無い	1
Q4	嫌い	1
Q5	好き	1
⋮	⋮	⋮
Q200	どちらでも無い	0
合計	-	12

【0059】総ての質問について点数化が済んだら合計値(素点)も算出し、各ポイントテーブルから合計される素点を利用して、例えば表8に示すようにテーブル化する。この処理は、回答内容を点数化することにより母集団と比較可能とするための前処理である。計算された素点テーブルは一時的にRAM102などのメモリに格納される。

【0060】

【表8】

質問No	被験者のポイント値
職種A	12
職種B	30
職種C	50
⋮	⋮
職種M	4

【0061】一つの職種について点数化が終了したら、他の職種についても同様の点数化処理を続ける(S203;YES、S202)。総ての職種について点数化処理が終了したら(S203;NO)、偏差値計算処理に移行する。

【0062】CPU101は、S202で計算された被験者についての素点テーブルと平均・標準偏差データベース3に格納された平均・標準偏差テーブルとに基づいて当該被験者の職種ごとの点数に関する偏差値を計算する(S204)。すなわち、CPU101は、点数分布が正規分布に近似している場合には、被験者の一の職種についての素点と同一職種における母集団の平均点との差分を計算し、これの標準偏差に対する割合に応じて偏差値を計算する。具体的には、

$$((\text{被験者の素点} - \text{母集団平均点}) \times 10 / \text{標準偏差}) + 50$$

などの偏差値算出方法にしたがって偏差値計算を行う。なお点数分布に偏りがある場合には、例えば点数分布上で被験者の偏差(全体における分布上の割合)を算出し、正規分布でその偏差における値が偏差値幾らであるかを参照して、その被験者の偏差値とする方法が考えら

れる。計算された職種単位の偏差値は、例えば表9に示すように職種に対応づけられたテーブルとしてRAM102などのメモリに格納されていく。

【0063】

【表9】

質問No	被験者の	
	素点	偏差値
職種A	12	45
職種B	30	59
職種C	50	75
⋮	⋮	⋮
職種M	4	32

【0064】他の職種がある限り(S205;YES)、上記偏差値計算(S204)を続け、総ての職種について偏差値計算が終了したら(S205;NO)、CPU101は出力処理に移行する。

【0065】偏差値テーブルが計算されたら、CPU101は、偏差値の高い順に職種を並べる。そして例えば図10に示すような適職評価グラフを生成し、出力装置6に画像表示する(S206)。なお、この適職評価グラフを、職種をその属性に応じてグループ化しグループごとに職種をまとめ、グループ内で偏差値の高い順に職種を並べ替えて表示させてもよい。このように並べればグループ単位で職種に対する適性をユーザに把握させることが可能である。ユーザの選択によりこの適職評価グラフを印字可能に構成しておいてもよい(S207)。

【0066】なお、適職評価グラフ上で適合の基準を明示する境界表示を行うことは望ましい。例えば高い偏差値(偏差値60等)のところに境界線を引けば、これ以上の偏差値の職種は大変適合している職種であることを示すことができる。低い偏差値(偏差値40等)のところに境界を引けば、これ以下の偏差値である職業は避けた方がよい職種であることを示すことができる。

【0067】また最も偏差値の高かった職種は当該被験者に最適な職種と判断されるため、CPU101は、説明データベース9を参照することにより例えば図11に示すような画面表示を行う。

【0068】さらに図11に示すように、CPU101は、ユーザの回答内容に対応した評価指標を備えていてもよい。この評価指標は、前記した評価質問群に予め対応づけられているものである。評価指標としては幾つかの種類が考えられるが、図11では曖昧嗜好指標や環境依存指標が示されている。CPU101は、被験者の回答情報を評価指標に対応づけて、各指標に予め対応づけられている質問のポイントを合計し、その合計点に対応してその指標の適合度を計算する。例えば曖昧嗜好指標に対応づけられている幾つかの質問について肯定的な回答が多くされていれば、曖昧嗜好指標が高いものとして評価され画面表示される。以上の画面表示で適職評価処理が終了する。

【0069】なお、被験者に回答シート上に回答させる

場合には、被験者から回収した回答シートを読取装置4で読み取って、当該適職評価装置で上記のような適職評価した後、評価結果をプリントアウトしてこの被験者に渡せばよい。

【0070】以上本実施形態1によれば以下の利点がある。

1) 本実施形態によれば、母集団を設定しその母集団に対し職種に対する適性を判定可能な質問に回答させる。そして回答情報を検査することにより、明らかに遣り甲斐を持って就業していると思われるサンプルを基礎データとして使用可能に構成したので、現実には職種に適応している者との比較において被験者がその職種に適するか否かが判定でき、的確な適職評価を行うことが可能である。

【0071】2) 本実施形態によれば、あらゆる職種に就業している構成員で国民の職業バランスに近似させて母集団を構成したので、広範な適職評価が可能である。

【0072】3) 本実施形態によれば、母集団と特定の職種に満足している集団との差分を計算するので、その職種に特徴的な傾向を端的に抽出することが可能である。

【0073】4) 本実施形態によれば、その職種に特徴的な傾向を示す回答率をさらに単純な範囲区分にしたがって数値化するので、高速演算に対応できる。このため回答率に基づいて処理した場合に比べ、より数多くの質問に基づく的確な適職評価を行える。

【0074】5) 本実施形態によれば、みずからの職種に満足している母集団についての平均点と標準偏差を基礎データとして利用するので、職種ごとの回答の傾向を端的に特徴づけることができる。

【0075】6) 本実施形態によれば、被験者の素点に基づき偏差値を適合度として判定に用いるので、被験者は複数の職種についての適性を数値として比較検討することが可能である。

【0076】7) 本実施形態によれば、幾つかの評価指標を適合度と併せて評価可能に構成したので、被験者に自分の行動様式や性質を客観的に示すことが可能である。

【0077】8) 本実施形態によれば、CD-ROM等の記録媒体で適職評価プログラムを提供可能に構成したので、汎用のコンピュータに適職評価プログラムをインストールすることで適職評価を実施することが可能である。

【0078】実施形態2

本発明の実施形態2は、上記実施形態1と同様の機能を有する適職評価装置をネットワークにおいて実施するための構成に関する。図12に、本実施形態の適職評価装置の構成図を示す。本適職評価装置は、図12に示すように、処理装置1、モデム10、回線11、サーバ2

0、ポイントマトリクスデータベース2、平均・標準偏差データベース3、質問データベース21および説明データベース22を備えている。

【0079】モデム10は、処理装置1とサーバ20との通信を仲介可能な通信装置であり回線が加入者回線であるかISDNであるか、および通信速度に対応して双方向通信可能に構成されている。

【0080】回線11は、公衆回線または専用回線であり中継線および中継器を介して隔てられたモデム10とサーバ20間に通信経路を設定可能に構成されている。

【0081】サーバ20は、汎用のコンピュータ装置であって通信機能を有し、本発明の適職評価プログラムに基づいて、ハイパーテキスト形式のファイルを生成可能に構成されている。ハイパーテキスト形式のファイルは、図示しないサーバ20の固定ディスクまたは回線に接続している通信サーバの固定ディスクに転送可能に構成されている。そして処理装置1からネットワークアドレスを指定することでそのファイルを参照することが可能になっている。サーバ20には、図1における固定ディスク100に格納されていたデータベース2、3、8および9が格納されている。

【0082】処理装置1その他の構成については実施形態1と同様であり説明を省略する。ただし、処理装置1は閲覧ソフトウェアが実行できるように構成されている。

【0083】上記構成において、まずユーザは処理装置1にネットワークの閲覧ソフトウェアを実行させる。次いで閲覧ソフトにおいて、サーバ20のネットワークアドレス(URLなど)を指定する。これによりネットワークアドレスで特定されるサーバの記憶領域に格納されているファイルが、処理装置1の閲覧ソフトで参照可能になる。このホームページに相当するファイルは、例えば図4に示すようなメニュー画面を表示可能に構成される。このメニュー画面の各アイコンにはリンク情報が設定されており、対応する他のハイパーテキスト形式のファイルに接続可能になっている。したがって、ユーザが処理装置1から閲覧ソフトにより表示されている画面のアイコンを選択するたびに、次々新規なファイルに接続し新たな画面を表示させることが可能になっている。図4乃至図11に示したような画面が実施形態1と同様の順で表示されるように各画面を表示するファイルにリンク情報を設定しておけば、実施形態1と同様にして、各画面における入力処理を行わせることが可能である。

【0084】本発明の適職評価処理については、最後の質問を入力するためのファイルが表示され、総ての質問に対してユーザがアイコンの選択を行い、次のファイルへの接続が指定されことを条件として行う。適職評価処理については上記実施形態1(図3)で説明した処理と同様である。サーバ20は、適職適合度グラフ(図10参照)をハイパーテキスト形式のファイルとして出力

し、処理装置1に閲覧可能に格納する。最適職種表示(図11)についても、ハイパーテキスト形式のファイルとして生成して、処理装置1から閲覧可能に格納する。以上の処理により、ネットワークを介したインターネットなどのWANであっても、本発明の適職評価方法を実行可能である。

【0085】なお、処理装置1とサーバ20との接続をバッチ処理に一旦切断するように構成してもよい。すなわち、質問に関するファイルを一旦FTPを用いて処理装置1に転送し、オフラインで被験者に回答させる。そして回答後処理装置1とサーバ20とを再び回線で接続して回答後のファイルをサーバに転送し適職評価処理をする。このように構成しておけば、質問に答えデータの送受信がされない長い時間の回線使用料を減らすことができる。

【0086】本実施形態2によれば、上記実施形態1と同様の効果を奏する他、ネットワークを利用し各自のコンピュータに適職評価プログラムをインストールする必要がなくなるため、広くユーザに利用させることが可能である。

【0087】また各データベースは適宜内容の更新が可能であるため、時代にマッチングした最新データに基づく適職評価を保守・維持していくことが可能である。

【0088】その他変形例

本発明は上記実施形態に限定されることなく、種々に変形して適用することが可能である。例えば上記実施形態ではデータベースは固定したものとしていたが、被験者が利用するたびに被験者のデータを含めて更新可能に構成してもよい。

【0089】すなわち、被験者の適職評価時に被験者の就業している職種を入力可能に構成し、適性質問群において当該被験者が適職に就業していると判定したら、当該被験者を母集団に加えてポイントマトリクスデータや平均・標準偏差データを更新するように構成すればよい。このような構成を採用することで、利用される程にサンプル数を増やしデータの確かさ増加させることができるようになる。

【0090】また、上記実施形態では全職種のポイントデータを計算した後、次に全職種の偏差値を計算するように構成していたが、一つの職種についてポイントデータの計算と偏差値計算を連続して行い、他の職種の計算に移行するように構成してもよい。

【0091】

【発明の効果】本願発明によれば、現実就業している母集団の適性を点数化しと被験者の適性と比較可能に構成したので、的確な適職評価を行う適職評価装置および方法を提供することができる。

【0092】特に、本願発明によれば、現実就業している母集団の適性について平均と標準偏差を計算し、被験者の適性を偏差値で評価可能に構成したので、偏差値の程度に応じて適合する職業の程度を正確に把握させることが可能な適職評価装置および方法を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施形態1の適職評価装置の構成図である。

【図2】ポイントマトリクスデータおよび平均・標準偏差の計算手順を説明するフローチャートである。

【図3】被験者の適職評価手順を説明するフローチャートである。

【図4】メニュー表示例である。

【図5】質問Iの表示例である。

【図6】質問IIへの移行表示例である。

【図7】質問IIIの表示例である。

【図8】質問IIIへの移行表示例である。

【図9】質問IIIの表示例である。

【図10】適合度表示例である。

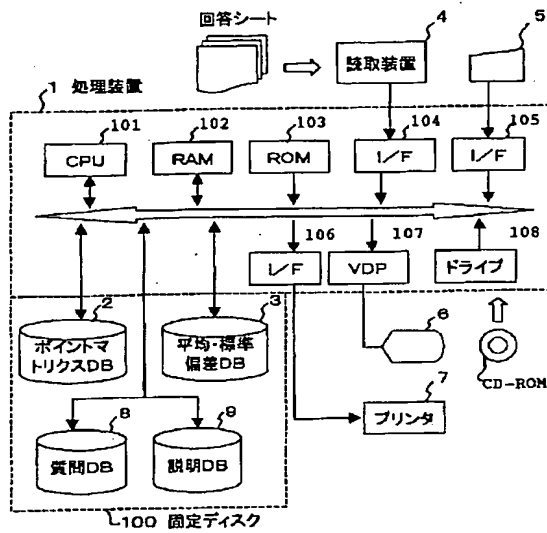
【図11】適職メッセージ表示例である。

【図12】実施形態2の適職評価システムの構成図である。

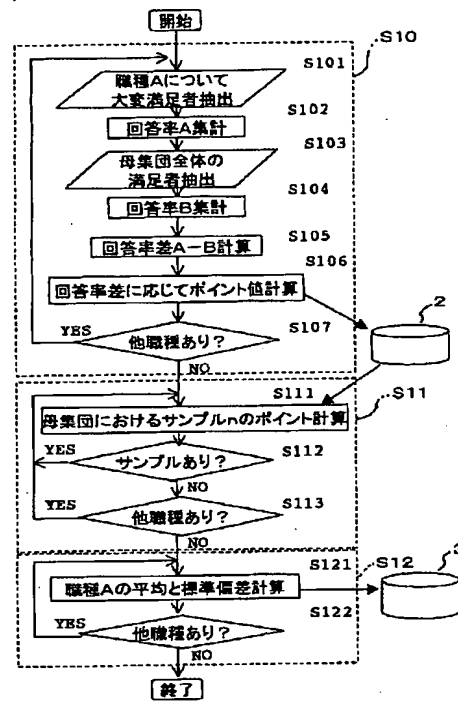
【符号の説明】

- 1…処理装置
- 2…ポイントマトリクスデータベース
- 3…平均・標準偏差データベース

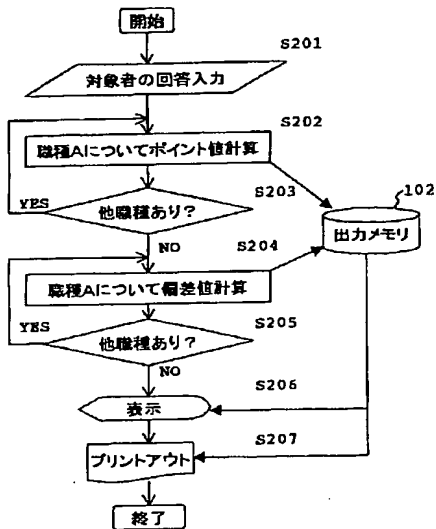
【図1】



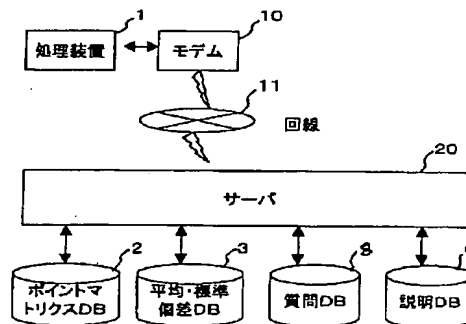
【図2】



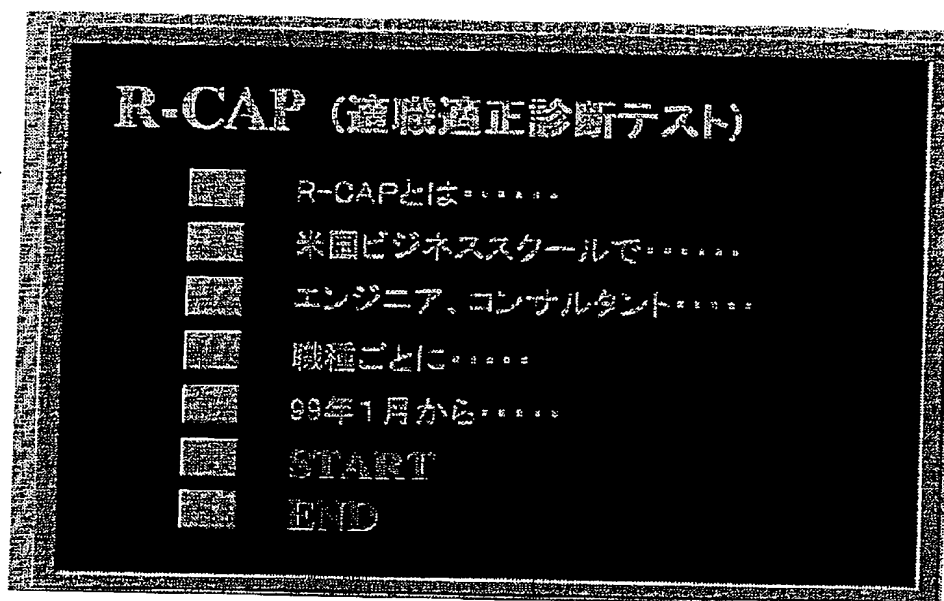
【図3】



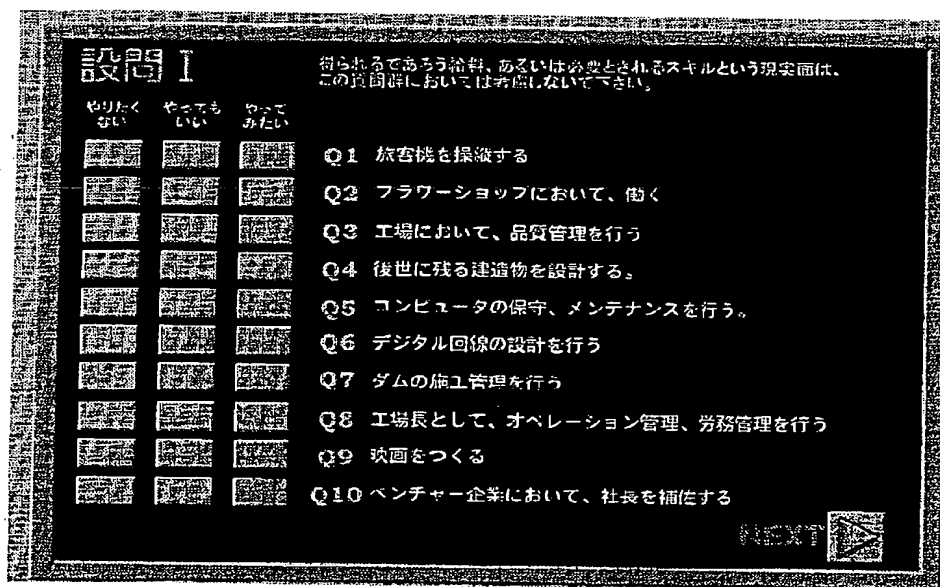
【図12】



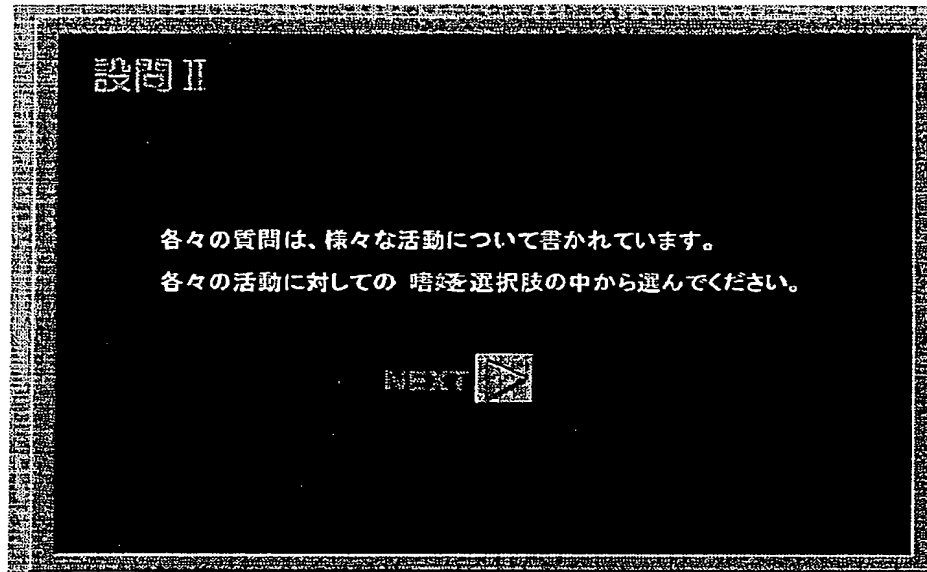
【図4】



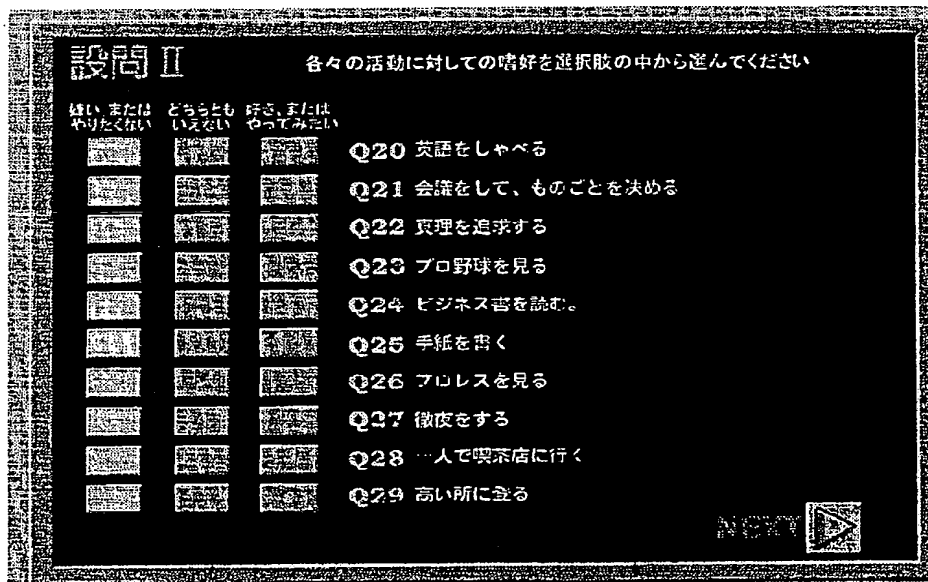
【図5】



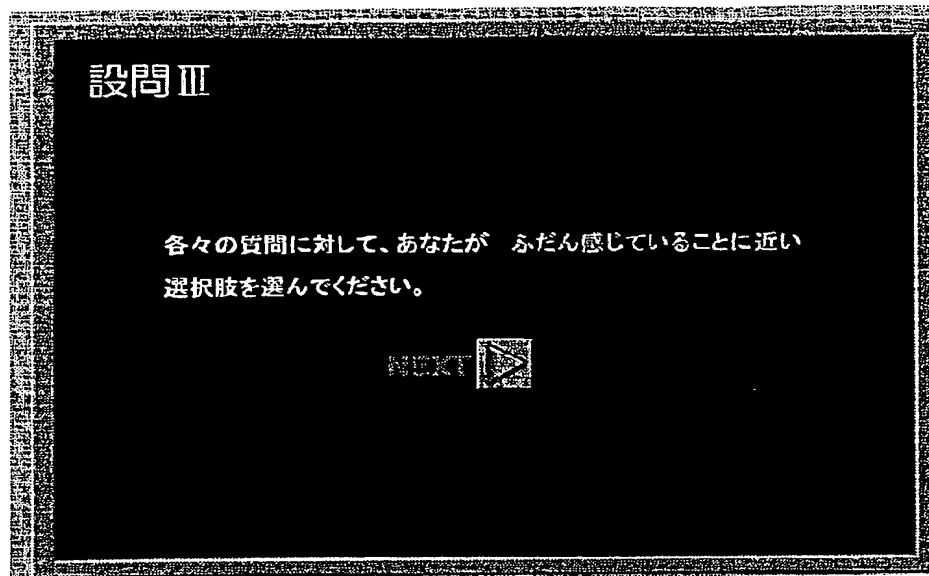
【図6】



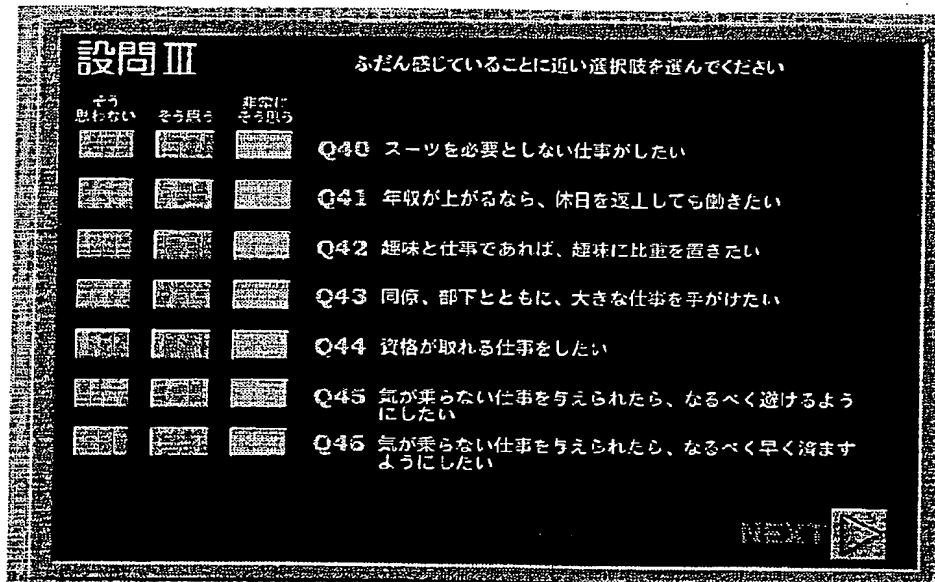
【図7】



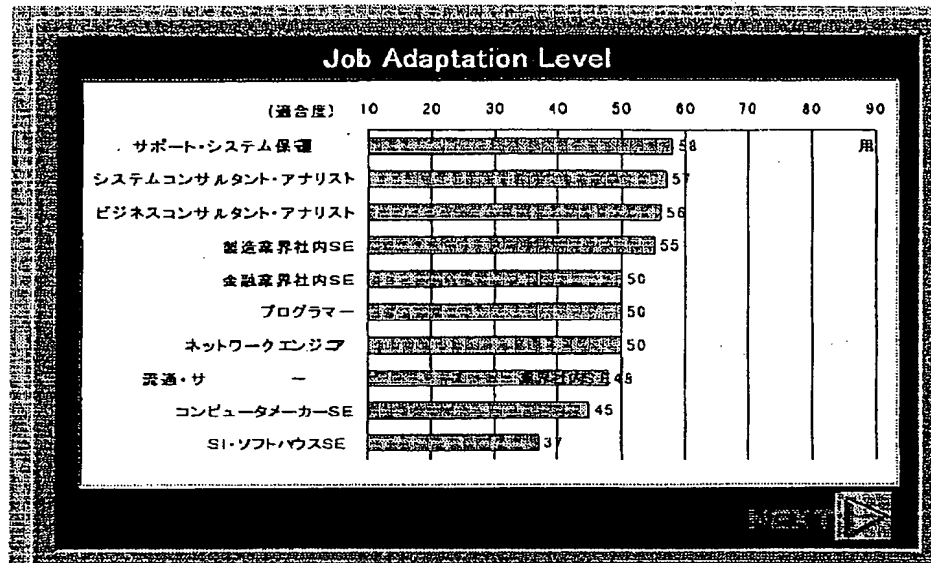
【図8】



【図9】



【図10】



【図11】

あなたが最も適していると思われる職種は

サポート・システム保守・運用

GIAL(興味嗜好指標) ★★★★★

Locus of Control(環境依存指標) ★★★★★

GIAL(興味嗜好指標): 物事の手順、あるいはゴール、ルールなどが、はっきりとわかっていないと落ち着かない人もいれば、すべて見えてしまうと方向に迷ってしまう人があります。このような不確かさに対する苦痛度を測定するのがGIAL。このスコアが高いほど、変化、刺激、リスク、多岐性などを求める傾向が高く、低いほど保守を求め、傾向が強いといえる。

Locus of Control(環境依存指標): この指標は、できごとの原因を自分自身に求め、同時に自分でコントロールできると考える傾向か、それとも外部環境に求める傾向か、その差を示すもの。スコアが高いほど外部環境に対する依存度が高いことを示している。

BACK NEXT

【手続補正書】

【提出日】平成11年10月18日(1999. 10. 18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】被験者の評価質問群に対する回答情報に基づいて被験者に適合する職種を評価する適職評価装置で

あって、母集団の前記評価質問群に対する回答情報と所定の職種に従事する集団の前記評価質問群に対する回答情報とに基づき評価対象となる職種への適合の程度が高いと判定された集団について、それらの回答内容を評価質問ごとに点数化して構成されたポイントマトリクスデータを職種単位に格納する第1のデータベースと、前記ポイントマトリクスデータと前記母集団の評価質問群に対する回答情報とに基づいて計算される前記点数の平均および標準偏差を職種単位に格納する第2のデータベースと、被験者に適合する職種を評価する際に、前記第1のデータベースに格納されたポイントマトリクスデータに対応させて当該被験者の素点を職種ごとに計算し、前記第2のデータベースに格納された平均および標準偏差に基づき前記素点の偏差値を職種ごとに計算し、当該偏差値の多少に応じて職種単位で当該被験者の適合の度合いを評価可能に構成されている処理装置と、を備えたことを特徴とする適職評価装置。

【請求項2】前記処理装置は、ある職種における前記ポイントマトリクスデータの生成時に、評価質問のうち当該職種に対する適合度を評価可能に設定された質問群についての回答内容を参照して当該回答内容が肯定的である集団を当該職種に適合した集団であるとして抽出可能に構成されている請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項3】前記処理装置は、ある職種における前記ポイントマトリクスデータの生成時に、評価質問各々に対し複数設定されている選択肢ごとに、当該職種に従事する集団および母集団の回答率をそれぞれ集計し、当該職種に従事する集団の回答率と母集団の回答率との差分を計算し、当該回答率の差分に応じた点数を付すことにより、前記評価質問を構成する各選択肢のそれぞれについて点数を対応させたマトリクスデータを職種単位に生成して前記第1のデータベースに格納する請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項4】前記処理装置は、前記ポイントマトリクスデータ生成時に、統計的に算出して設定した範囲区分に前記回答率の値を対応させて点数化する請求項2に記載の適職評価装置。

【請求項5】前記処理装置は、ある職種における前記平均および標準偏差の計算時に、母集団の構成員に単位に、各評価質問についての選択肢への回答情報を前記ポイントマトリクスデータに照合して点数を付し、総ての評価質問に対して付された点数を合計し、構成員ごとの合計点数の分布に基づいて平均および標準偏差を計算する請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項6】前記処理装置は、被験者に適合する職種を評価する際に、職種単位で前記ポイントマトリクスデータを参照し、評価質問各々に対しどの選択肢が回答されているかに応じて点数を付し、総ての評価質問に対して

付された点数を合計して前記素点を計算する請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項7】前記処理装置は、被験者に適合する職種を評価する際に、前記素点と母集団の平均点との差分の前記標準偏差に対する割合に応じて前記偏差値を計算する請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項8】前記処理装置は、被験者に適合する職種を評価する際に、計算した前記偏差値の最も高いものを当該被験者に適合する職種として評価可能に構成されている請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項9】前記評価質問群は、予め特定の評価指標に対応づけられており、前記処理装置は、被験者に適合する職種を評価する際に、当該被験者による回答情報と前記評価指標とを対応づけて属性分析可能に構成されている請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項10】前記処理装置は、前記評価質問に関する情報を格納する第3のデータベースをさらに備え、被験者に適合する職種を評価する際に、前記第3のデータベースに格納された評価質問に関する情報を被験者に参照可能に提示可能に構成されている請求項1に記載の適職評価装置。

【請求項11】前記処理装置は、職種に関する説明情報を格納する第4のデータベースをさらに備え、被験者に適合する職種を評価する際に、被験者に適合すると特定された職種に対応する説明情報を前記第4のデータベースから読み取って当該被験者に参照可能に提示する請求項9に記載の適職評価装置。

【請求項12】前記処理装置は、回線を介して端末装置と接続可能に構成され、前記端末装置から職種評価が要求された場合に、当該端末装置から入力された回答情報に基づいて当該端末装置を操作する被験者に適合する職種を評価可能に構成されている請求項1乃至請求項11のいずれか一項に記載の適職評価装置。

【請求項13】被験者の評価質問群に対する回答情報に基づいて被験者に適合する職種を評価する適職評価方法であって、

母集団の前記評価質問群に対する回答情報と所定の職種に従事する集団の前記評価質問群に対する回答情報とに基づき、評価対象となる職種への適合の程度が高いと判定された集団について、それらの回答内容を評価質問ごとに点数化して構成されたポイントマトリクスデータを職種単位に第1のデータベースに格納するステップと、前記ポイントマトリクスデータと前記母集団の評価質問群に対する回答情報とに基づいて計算される前記点数の平均および標準偏差を職種単位に第2のデータベースに格納するステップと、

被験者に適合する職種を評価する際に、前記第1のデータベースに格納されたポイントマトリクスデータに対応させて当該被験者の素点を職種ごとに計算するステップ

と、
 前記第2のデータベースに格納された平均および標準偏差に基づき前記素点の偏差値を職種ごとに計算するステップと、
 当該偏差値の多少に応じて職種単位で当該被験者の適合の度合いを評価するステップと、を備えたことを特徴とする適職評価方法。

【請求項14】被験者の評価質問群に対する回答情報に基づいて被験者に適合する職種を評価するためのプログラムを記録した記録媒体であって、前記プログラムは、母集団の前記評価質問群に対する回答情報と所定の職種に従事する集団の前記評価質問群に対する回答情報とに基づき評価対象となる職種への適合の程度が高いと判定された集団について、それらの回答情報を評価質問後とに点数化して構成されたポイントマトリクスデータを職種単位に第1のデータベースに格納する機能と、
 前記ポイントマトリクスデータと前記母集団の評価質問群に対する回答情報とに基づいて計算される前記点数の計算および標準偏差を職種単位に第2のデータベースに格納する機能と、
 被験者に適合する職種を評価する際に、前記第1のデータベースに格納されたポイントマトリクスデータに対応させて当該被験者の素点を職種ごとに計算し、前記台のデータベースに格納された平均および標準偏差に基づき前記素点の偏差値を職種ごとに計算し、当該偏差値の多少に応じて職種単位で当該被験者の適合の度合いを評価する機能とを備えたことを特徴とするプログラムを記録した記録媒体。

【請求項15】被験者の評価質問群に対する回答情報に基づいて被験者に適合する職種を評価する適職評価装置であって、
 母集団の前記評価質問群に対する回答情報および所定の職種に従事する集団の前記評価質問群に対する回答情報に基づいて職種ごとに計算された、職種に対する適合の程度を示すポイントマトリクスデータを格納する第1のデータベースと、

前記ポイントマトリクスデータに基づいて職種ごとに計算された、職種に適合した集団の有する傾向に関する数値を格納する第2のデータベースと、
 前記第1のデータベースに格納されたポイントマトリクスデータおよび前記被験者の回答情報に基づいて、前記被験者の素点を職種ごとに計算し、前記第2のデータベースに格納された数値および前記被験者の素点に基づいて前記被験者の職種に対する適合の程度を示す数値を職種ごとに計算する処理装置と、を備えたことを特徴とする適職評価装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正内容】

【0024】本発明は、被験者の評価質問群に対する回答情報に基づいて被験者に適合する職種を評価させるためのプログラムを記録した記録媒体である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正内容】

【0025】なお、記録媒体とは、何等かの物理的手段により情報（主にデジタルデータ、プログラム）が記録されているものであって、コンピュータ、専用プロセッサ等の処理装置に所定の機能を行わせることができるものである。要するに、何等かの手段でもってコンピュータにプログラムをダウンロードし、所定の機能を実行させるものであればよい。例えば、フレキシブルディスク、固定ディスク、磁気テープ、光磁気ディスク、CD、CD-ROM、CD-R、DVD-RAM、DVD-ROM、DVD-R、PD、MD、DCC、ROMカートリッジ、バッテリーバックアップ付きのRAMメモリカートリッジ、フラッシュメモリカートリッジ、不揮発性RAMカートリッジ等を含む。

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.